

ハバロフスク地方における環境問題解決について

- 1 自治体名： ハバロフスク地方
- 2 発表者名： ニキタ・ヒジニャック (Nikita Hijinyak)
(ハバロフスク市第 80 総合学校)
- 3 活動名： ごみの分別回収
- 4 活動期間： 2012 年 4 月—6 月
- 5 活動場所： ハバロフスク市
- 6 活動人数： 500 人以上
- 7 活動をはじめた経緯
ハバロフスク市の環境問題を少しでも解決するために実施した
- 8 発表要旨

ハバロフスク地方では、2012年に、環境改善及びリサイクル商品拡大のため、ごみ分別回収の普及運動が行われている。

毎年、ハバロフスク地方では、環境危機保全デーが開催される。今年の多くの行事は環境汚染という問題に関係しているものである。

ごみ分別回収という課題に住民の注目を集めるために、6月5日には、ハバロフスク地方の天然記念物に指定されている「ディナモ公園」の清掃アクションが行われた。このアクションには、自然保護関係者、企業、学生、生徒が参加した。

ディナモ公園はハバロフスク市の名所であり、中心部に位置している自然の“グリーンアイランド”でもある。この公園でスポーツ、文化、啓蒙等の行事が行われる。

一番大事なのは、公園が市民と観光客の憩い場になっていることである。もちろん、市民が公園に大きな環境負荷を与えている。人目に付かないところにはたくさんのごみがある。

アクションの開催中、プラスチックごみが60袋、ガラス瓶60袋、その他のごみ80袋が集められた。プラスチックとガラスのごみが新たな製品の原料として再生利用する目的でリサイクル業者により回収された。

6月に毎年恒例の「緑パトロール」というアクションが行われた。市民の憩い場である川沿いでは150袋以上の家庭ゴミが回収された。アクション開催中、自然保護の大切さについて市民と話し合う場も設けられた。

ハバロフスク市の学校では産業廃棄物についての講演が行われ、学校周辺、川岸、海岸、公園、市民の憩い場等で清掃活動が実施された。

今年、もっとも記憶に残るイベントの一つは、固形廃棄物から制作された作品のコンクールで

ある。制作する作品の条件の一つは、今後実用的に使うものを作ることである。

4月から5月にかけて、生徒たちは古着、ペットボトル、ガラス瓶、包装紙、ビニル袋、CD、車のタイヤ等のごみから作品を制作していた。

そのコンクールのおかげで、学校周辺が見違えたかのように変わった。花壇が植え付けられ、タイヤからアート作品ができた。古い椅子、掃除機、傘にもセカンドライフが与えられた。

ガラスやキャップを利用した数多くの作品、花瓶、人形等がコンクールに出展された。普段捨てているものからできた物ばかりであった。

コンクールに出されたアート作品の大部分は展示会にも出展された。参加者は創造的な体験を共有することができた。受賞者は賞状と記念品が授与された。

物を捨てることを急いではいけない、捨てるようとしている物にセカンドライフを与えることができるという大事なことを皆が学んだ。我々の天然資源も合理的に使うことによって、天然資源を保全することができるだろう。

このような行事を開催することによって、若い世代が環境に対して感心や思いやりの心をもつようになる。また自然とのふれあい、環境分野の知識の向上、環境を保全する意識の高揚につながる。

我々の未来が、我々の行動で決まる。